

りょうぜん天蚕の会だより

【第 7 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 柳沼 泰衛（電話・FAX 024-586-3004）

【 会長あいさつ 】

立春の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」は、この度7年目を迎えました。これもひとえに会員皆様の熱心な活動と関係機関のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、当会の活動趣旨は、霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進しようとするものです。

設立以来、これまで伊達市、福島県関係機関等のご支援をいただきながら、会員一同一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むと共に、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行っております。

22年度は約7,100粒の天蚕繭を収穫し、「天蚕紬糸による布織物や和装装飾品」等の製作、「第6回国際野蚕学会」出席とプレゼンテーション、また、東京の「福島県八重洲観光交流館」での展示販売などの活動を実践しました。

そして、4月14日付けで天蚕では全国初の「純国産絹マーク」の使用が日本絹業協会から認可されました。

これらは新聞テレビの報道により、全国から大きな反響と注目を浴びたところであります。

23年度はこの成果と実績を基に更なる前進を図るつもりでありますので、皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。



中川飼育ハウスの抜根耕起作業実施

① 2月28日(日) 午前中、掛田浅草口の大橋飼育ハウスにて、5名の参加で剪定と穂木作り作業を実施した。

中川飼育ハウスの大半の樹木がカミキリの幼虫に侵されて枯れ木になったため、抜根して新たに挿木する必要性が生じたためである。このためハウス5棟の抜根・耕起を行った。



② 3月22日(月) 午前中、中川地区会員9名が参加して中川飼育ハウスの飼育樹木の剪定とマルチ敷きを行った。柳沼定男氏がトラクターを、斎藤行応氏がマルチ掛け器を持ち込み、機械作業を行い、会長、副会長が穂木400本を挿し木を行った。



飼育ハウスのネット張り作業実施

季節はずれの大雪が降った翌日の18日朝より、悪条件の中、飼育ハウスのネット張り作業と山付け作業を実施した。

飼育ハウスの中は改植したので田んぼのように柔らかくなっていた中、泥んこになりながら十棟のネット張りに男性会員12名が精を出した。今年度は柵も利用できる程に成長したので柵樹木棟にもネットを張った。

また、女性会員8人が選別と袋に小分けした種3000粒を山付けした。



「純国産絹マーク」の使用許可される

天蚕では全国初！ 日本絹業協会から大きな期待！

日本絹業協会に申請していた「純国産絹マーク」の使用が4月14日付けで許可された。これは4月6日に柳沼会長自ら協会（東京都有楽町）に出向き、天蚕ハイブリッドショール等の天蚕製品を持参してプレゼンテーションを行った結果である。

天蚕糸による申請と許可は日本最初のことで、全国から注目を浴びている。日本絹業協会も全国で天蚕を飼育している団体又は個人名を特定していたが、申請は初めてのことであり今後の当会の商品化・生産量のアップに大いに期待を寄せていることがうかがえる。

また、当協会では新商品開発等の支援として研修費や開発費の助成についても検討しているとのことで、これらにより新しい売れる特産品が創成されれば、地域活性化がより一層促進されると思われる。

「純国産絹マーク」の使用許可の報は、早速、福島県農林水産部園芸課にも情報が入り、県蚕繭の再評価につながることで話題となった。

5月27日、柳沼会長と八島恭子さんが県庁を訪問し、鈴木義仁農林水産部長に絹マークの使用承認を報告した。鈴木部長は「全国に本物の良さを伝えてほしい。」と語るとともに、県ブランド認証製品の認定などを視野に販路開拓などを支援する意向を示した。



上：鈴木農林水産部長に絹マークの使用承認を報告した新聞記事。

左：純国産絹マークと承認時の製品

左上：純国産絹マーク（登録番号 114-02）

白鷹天蚕の会と講習交流

①八島恭子、佐藤厚子両会員、織りと経糸掛け研修

3月13日（土）、白鷹天蚕の会へ依頼した天蚕糸の捻糸を受け取りに、八島事務局長が小松織物に伺った。前回伺った折、小松夫人が経糸の掛け方を実演していただいたこともあり、今回再実演を依頼し、会員織姫の八島恭子さんと佐藤厚子さんに同行を願い、織りと経糸掛けを研修した。

同日、研修の御礼として白鷹天蚕生産者の婦人11名に「のどか村」において「天蚕繭コサージュ」作りの臨時講習会を実施し交流を深めた。会場には、生産者組合長の樋口忠一氏、町役場の庄司係長も駆けつけて下さり懇談も行った。



②菅野公会員、 天蚕交流ボランティア演奏

9月18日から20日にかけて白鷹町恒例の第34回「鮎まつり」が開催され、3日間の来場者は約4万7千人。

二日目の19日には菅野公会員が招待され、3ステージのボランティア演奏を行い喝采を浴びた。

村上市より天蚕繭工芸体験に来訪

9月3日（日）、新潟県村上市猿沢「朝日シルク花・製作工房」会員13名が大型バスで来訪した。まず、中川の飼育ハウスを見学した後、「工房やしま」にてアクセサリーの製作体験をした。「朝日シルク花・製作工房」は既に25年の実績があり、道の駅内に独自の展示販売所を持っている。昨年の高崎市で行われた「シルクサミット」において当会の天蚕商品を見て見学を思い立ったという。

花の会会員は繭コサージュ等既に製作しているだけに、手早く呑み込みも早く、予定時間より早く製作した。また、中には2個製作した人もいたが、家蚕の繭と異なり剥がれにくく固いのには手こずっていたようだ。

当会員の柳沼信子さん、菅野久代さん、阿久津千代さんが指導にあたった。養蚕についての話が弾み新たな交流が生まれた。



阿武急保原駅に天蚕紬製品展示

～糸づくり体験会も実施～

10月3日、阿武隈急行保原駅コミュニティーセンターで天蚕紬製品展示・糸づくり体験会を行った。伊達市観光物産協会の主催によるもので、毎月第一日曜日の「阿武隈急行フリー乗車の日」と重なったため大勢の乗降客で賑わった。

初めて見る緑の繭に驚嘆する人、恐る恐る手にする小学生、天蚕布やハンドバック、アクセサリーに賞賛を寄せられるなど、当会の活動が阿武急沿線に発信する機会を大いに得たところである。なお、10月3日を「テンサンの日」と定め、今後毎年実施する予定である。



天蚕の会新商品開発検討会開かれる

～各界の権威者から厳しい意見も～

12月7日（火）郡山市福島県農業総合センターにおいて、センター研究員や東北撚糸金井社長、美ふく斎藤社長、県戦略販売促進課長、ハイテクプラザ長沢繊維課長、岩手大学瓜田章二氏の参加を得て開催された。

本会からは柳沼会長以下、河田、八島夫妻、奥山、八城、国分、八島時男、石岡会員の8名が参加した。

午前中はセンターの繊維関係設備と繰糸見学、自己紹介と天蚕に懸けるそれぞれの思いを語った。午後は繰糸実習班と検討委員班とに分かれ、ハイブリッド繰糸は県センターの寺島氏の指導の下2時間実習に励んだ。また、新製品開発検討会に先立ち、当会で商品化しているショールをはじめハンドバックや小物、アクセサリーのそれぞれのコンセプトを紹介した。

各界の権威者だけに、次のような厳しい意見を沢山いただき大いに参考になった。これを基に会員一同更なる研鑽を励むことが求められた研修会であった。

- ①製品の安定供給ができるか。
- ②価格を抑えるか、何処にターゲットを絞るかで商品開発は異なる。
- ③色の定着を図るのか天蚕の持つ他の特性を生かすのか明確にした方がよい。
- ④企業と技術提携を図るには現行生産量の大幅なアップが不可欠である。



国際野蚕学会に出席

天蚕の魅力 世界にPR

12月23～24日、東京農業大学（東京都）で第6回国際野蚕学会が開催され、柳沼会長と八島事務長が参加した。当会議はアジアや欧米など約20カ国の団体が出席し、プレゼンテーション形式で野蚕に関する活動や新商品を発表した。

本会は「天蚕ハイブリット糸ショール」や通常の3倍の量の繭を回収できる飼育方法、天蚕の展望など、日本固有の天蚕魅力を世界に伝えた。



東京で霊山特産品PR

～天蚕ショール、ハンドバックなど～

12月23～24日、東京八重洲の福島県八重洲観光交流館で「伊達市・霊山特産品フェア」が開催され、当会も製品の展示販売を行った。霊山にちなんだ商品を広めようと初めて企画され、「りょうぜん天産の会」のショール、ハンドバック、アクセサリーなどの他に「福島りょうぜん漬」のたくあんやしば漬け、ごぼう漬けなどが並び、伊達市・霊山町の魅力を伝えた。

八重洲観光交流館には昨年、天蚕の会がちょうど県特産品コンクールで「奨励賞」を受賞したのを契機に展示即売したこともあり、PR紙を見たレピーター等が大勢訪れた。来客からは「展示期間をもっと長く設定してほしい」との要望があるなど、その自然の風合いより向上した天蚕製品に見入っていた。



秋篠宮妃紀子さま 「天蚕」を詠む

～「葉」を題に「歌会初の儀」～

1月14日、皇居・宮殿「松の間」で新春恒例の「歌会初の儀」が開かれ、両陛下、皇太子ご夫妻、秋篠宮ご夫妻ら皇族をはじめ、一般の入選者らの歌が伝統的な節回しで披露された。この席で秋篠宮妃紀子さまは「天蚕の繭をつむぐ」情景を次のとおり歌われました。

天蚕（やままゆ）は、まてばしひの葉につつまれて、うすき緑の繭をつむげり

以前から皇居では蚕の飼育が行われており、特に美智子皇后も天蚕に精通されており、これまでも数度新聞等で紹介されています。紀子さまにおかれても「萌葱色の天蚕」には特別な思いがあったのでしょうか。

友 2011年(平成23年)1月15日(土曜日) 9版 社会 (26)

「葉」を題に歌会始

伝統的な節回しで披露

陛下、白樺を詠む



新春恒例の「歌会始の儀」が14日、皇居・宮殿「松の間」で開かれ、「葉」を題に天皇、皇后両陛下や皇族、一般の入選者らの歌が伝統的な節回しで披露された。天皇陛下は、結婚50年を迎えた2009年の立春に種をまいたシラカバの若葉に、夏の

日差しが当たっている情景を「五十年の祝ひの年に共に蒔きし白樺の葉に曙き日の射す」と詠まれた。

皇后さまは、皇居内で散策中に目にしたまんさくの木を題材に「おほかたの枯葉は枝に残りつつ今日まんさくの花ひとつ咲く」と詠んだ。

皇太子さまは登山中に目にした紅葉を、皇太子妃雅子さまは長女愛子さまが通う学習院初等科のイチヨウを歌にした。

両陛下、皇太子さま、秋篠宮ご夫妻ら皇族をはじめ、一般応募の約2万首から選ばれた鳥取市の農業森本由子さん(76)ら入選者10人が参列。雅子さまは儀式には欠席した。

最年少入選者で兵庫県伊丹市の中学3年大西春花さん(14)らに続き、選者代表陛下に招かれて歌を詠んだ召人の歌人安永齋子さん、常陸宮さま、雅子さま、皇太子さま、皇后さま、天皇陛下の歌が順に朗詠された。

儀式終了後、入選者が宮内庁で記者会見。京都市の文筆家桑原亮子さん(30)は

天皇、皇后両陛下が参列して行われた「歌会始の儀」＝14日午前、宮殿・松の間(代表撮影)

(注)まてばしひ

まてば - しい【馬刀葉椎・全手葉椎】

ブナ科の常緑高木。わが国暖地の海岸近くに自生。高さ約10m、葉は楕円形、厚く平滑で、光沢がある。5～6月頃、黄褐色の雌雄花穂を生じ、長楕円形の堅果(どんぐり)を結ぶ。

果実は炒(い)って食用。材は建築材・器具材。マテバガシ。マチガシ。マタジイ。サツマジイ。

[広辞苑より]

市内小学校に観察用天蚕配る

天蚕と飼育家蚕を素材にしたコサージュを胸に卒業式に臨む【大石小】

市内各小学校に対し平成１９年度に天蚕飼育観察ハウスを増設寄贈していますが、今年度も総合学習の一環として幼虫の山付けを行いました。

柳沼会長と八島事務長が天蚕に関する基礎知識や特性、飼育法の指導とともに「掛田折り返し糸」や日本最初の民間養蚕伝習所が開設された「歴史と伝統の町」について講演しました。



上：天蚕幼虫に見入る大石小の生徒達 ～加付ー～
 右上：幼虫をハウス内のエゾノキヌヤナギに移す。
 右下：収穫した初蚕を手にする生徒達

右上：幼虫をハウス内のエゾノキヌヤナギに移す。

右下：収穫した初蚕を手にする生徒達



イナバウワー スタイルで食事中

クヌギの枝に結繭した天蚕



天蚕の成虫

天蚕の各種製品

会員の活動スナップ



